

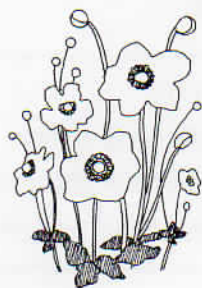
里山の風景



みんなちがってみんないい
地球の家族
2016 年

もくじ

表紙 絵・題字	山本 仁恵	1
もくじ 表紙の言の葉	山本 仁恵	2
梶原に来てしまいました!!	笹岡 高志	3
脱炭素時代へ	近藤 こよ美	4
新国立競技場の選考結果に異議あり	野口 政司	5-7
里山の家『八万町の家』竣工	野口 政司・路万	8-11
私の家づくり	建主さん	9
新町川周辺のLED景観照明を眺めて 里山まちなみ探検隊レポート		12-13
『闇はいずこへ!?!』	八木 正江	12
『光の調和』	永田 公子	13
田んぼ探検隊 2015 報告	近藤 こよ美	14-15
田んぼ探検隊に参加して得たもの	Y. K.	14
“いただきます”	伊原 智恵美	15
田んぼ探検隊という響き	M. O.	15
こちよい風景 7 — 千曲川のほとり 北国街道海野宿 —	河野 真理	16-17
めぐ便り	石川 めぐみ	18-19
活動報告・行事予定・入会のご案内	近藤 こよ美	19
紅葉山だより	石原 禮子	20
あとがき	永田 公子	20



(カット) 石川 (佐々木) めぐみ

梶原に来てしまいました！！

ゆすはら産業担い手育成塾
笹岡 高志

ご無沙汰いたしております。秋から梶原町に招かれ、地域産業を担う人材を育てる「ゆすはら塾」の塾長をまかされ、身動きが苦しくなりました。

何が出来るか大いに疑問ではありますが、スタートラインに立ちました。中山間の課題を前に進めるため、精一杯汗をかく覚悟です。

私が塾長をつとめる「ゆすはら森づくり担い手育成塾」の一期生は8人です。民間の伐採・運搬業者（会社）から4人、森林組合2人（製材と総務）、ペレット工場2人。年齢は23～37歳で、誠に多彩。自らの職場でスキルアップを図りながら、当面は塾の月一回ずつの講義と先進地研修で、広い視野を身につけて欲しいと考えています。



昨秋、嬉しいニュースが飛び込んできました。昨年誌面掲載して頂いた野島組合長が率いる香美森林組合（高知県香美市）が、地道な組合運営が評価され、農林水産大臣賞を受けました。5年に一度の表彰で、しかも全国一。立派ですし、取材をしてきた私も喜びをかみしめました。

欧州の先進林業を学びつつ、香美のよき点（チームワーク）も伸ばす。FSC取得から10年、やや足踏み状態の梶原林業に動きをつけねばなりません。

育成塾も2月には、同組合にお邪魔し、一泊研修を予定しています。増産を目指し、役職員が弛まず努力してきた「野島イズム」を、塾生に肌で感じて貰いたいと思っています。

表題は、新年三日に町の成人式で行う私の「演題」です。人口4000弱、小さな町です。色々頼まれること多く、勉強になります。

役場地点で標高400mの梶原。寒さがこたえます。10月から週に3日、1乃至2泊の生活です。職場（産業振興課）の新しい仲間から、「天気予報は高知を見てはいけません。福岡に雪マークの日は注意して下さい」。12月頭には、冬用タイヤに履き替えました。

寒さゆえに、雲の上の町の新緑は格別です。セカンドハウスに宿泊可。是非ともお運びくださいますように。

昨年末、国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）にて「パリ協定」が採択され、今世紀末には人間活動による温室効果ガス排出の「実質ゼロ」を目指す温暖化対策の国際協定が誕生しました。久しぶりの希望あるニュースです。

実質ゼロとは、排出を森林や農地などが吸収できる範囲に抑えるということ。現在は地球の吸収能力の倍くらいを排出しているそうですから、半分以上に減らさなければなりません。しかし、180を超す国・地域が国連に提出した削減目標では、各国が約束を守っても産業革命以後の平均気温上昇を「2度」未満に抑える目標は達成できないという国際機関の分析もあります。また各国が掲げる削減目標に法的拘束力がないことも大きな問題です。温暖化を食い止める道のりは実に険しいものです。

COP21で化石燃料に依存しないクリーンなエネルギーシステムの構築が世界的合意を得た今、原発依存から脱し、再生可能エネルギーと省エネをより一層実現していくことが、今を生きる私たちの責任と思います。

ところで、北海道旭川市の北に位置する下川町というまちをご存知でしょうか。人口3500人、森林面積88%、農地6%、高齢化率39%のまさに日本中いたるところに存在する過疎に瀕した集落、だからこそ再興をめざして脱炭素時代にむけた取り組みを先行している、そんなまちのひとつが下川町です。

このまちのすごいところは、まちのめざすべき近未来像を明確にし、地域の資源を地域循環させながら有効にいかしていくシステムを構築していることです。循環型森林経営を行い、4600haの町有林を60年のサイクルで植林・育成・伐採していくことで、森林資源の持続可能な利用を保証します。そして、森林資源を円柱材・集成材・木炭・木酢液、精油、木質ボイラー燃料など、余すことなくカスケード利用することで新たな産業を創造し、就労・雇用の確保をしています。また、木質バイオマスボイラー導入と集住化による地域熱供給システムで地産エネルギーを自給・マネジメントしていきます。集住化は省エネやコミュニティ機能の向上などをもたらし、次世代に向けた持続可能な集落のデザインがなされていきます。

このような森林の価値を生かしながらエネルギー自立と地域創造にむかって走る、脱炭素時代へのウェイブは、下川町のような地方のまちから始まっています。林業も農業も私たちの暮らしも、しなやかな発想で新たな価値を生む取り組みが求められていると実感します。

（下川町の取り組みは、徳島再生可能エネルギー協議会主催の講演会「森とエネルギーと地域創造」からまとめたものです。講師の中埜公平氏は環境省で違法伐採等の国際案件、カーボン・オフセット等の国内制度設計等を担当したのち、H22年に下川町へ転職。環境未来都市、バイオマス利活用の政策形成等で、活躍されています）

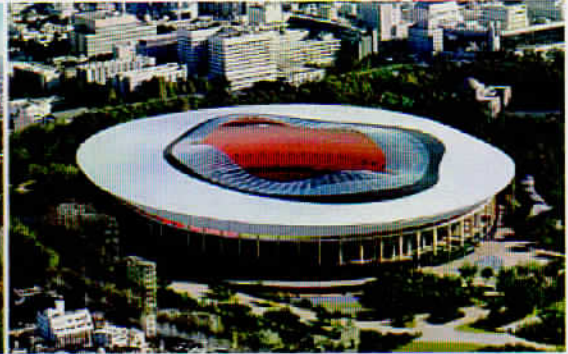
地域の中で地域資源を有効に活用・循環している下川町のように、私たちも住むまちの地域資源を生かして、低炭素時代のまちや暮らしの在り様を改めて取り組んでいきたいものです。



新国立競技場の選考結果に異議あり

NPO 法人 里山の風景をつくる会 理事

建築家 野口 政司



A 案 (隈研吾 + 大成建設ら)

B 案 (伊東豊雄 + 竹中・清水・大林ら)

新国立競技場の見直し計画案が提出され、建築家の隈研吾氏らのチームがまとめたA案が採用されることになった、と年末に報道されました。

今回の見直し計画では、林野庁からの要請もあり、日本の木を活用することという要項が加わり、A案、B案とも、木をどう生かすかが大切なポイントになりました。

隈氏の案は、法隆寺の五重の塔の屋根のような木製の垂木をデザインに取り入れ、日本産の杉を利用して和のテイストを演出するという計画です。それに対して、建築家の伊東豊雄氏のチームは、諏訪大社の御柱をモチーフに、カラマツの列柱が大屋根を支える、というダイナミックな計画案を提出しました。どちらも木をデザインの大切な要素として用いており、『屋根』対『柱』の対決と大いに注目されました。

(写真は両氏HPより引用)



隈研吾 梶原町役場



伊東豊雄 せんだいメディアテーク

隈氏は、高知県梼原町の道の駅『雲の上ホテル』や『梼原町役場』、『木橋ミュージアム』などを手がけ、里山の風景をつくる会のメンバーも実際訪れたことがあるので、親しみのある建築家です。

一方、伊東氏は、安藤忠雄氏やザハ・ハディド氏と並んで、建築のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞しています。代表作は『せんだいメディアテーク』で、ガラス張りの透明感のある建築です。東日本大震災後には、全国から集まったボランティアの人たちの情報センターとして活用されました。又、被災者向けの集会所『みんなの家』でベネチア・ビエンナーレの金獅子賞を受賞しています。

審査員による採点では、610 対 602 の僅差で隈氏らのA案が選ばれました。公表された採点表によると、利用者の使い易さを考慮したユニバーサルデザインや木材を利用した日本らしさ、屋根や観客席の構造や建築計画などの点でB案が勝っていましたが、配点の多い事業費の縮減や工期短縮などの確実性の点でA案が上まわっていたためにA案が選定されたとのこと。いわば使い易さやデザイン、などよりも工事費や工期を重視した採点となったようです。

私の評価では、スタジアムの祝祭性や精神的な高揚感など、B案の方が数段優れていると思います。又、観客の使い易さ（ユニバーサルデザイン）もこれからの公共施設には不可欠のものです。特にパラリンピックの会場となれば重要なファクターとなるでしょう。

ザハ・ハディド案のデザイン重視の選考結果からの過度の反省から、又、つまづいたことによる工期の不足からA案が浮かび上がったのでしょうか。しかし、工事費、工期共に提案された数字はA・Bともほとんど差がないことを考えると、大いに首をひねる結果だと思われま



隈研吾 M2



隈研吾 梼原 木橋ミュージアム



伊東豊雄 八代市立博物館 ミュージアム



伊東豊雄 ぎふメディアコスモス

項目 (委員 1名当たりの配点)		審査結果 (委員 7名の合計点)	
		A 案 隈研吾・大成建設	B 案 伊東・竹中・清水・大林
業務の実施方針 (20)		112	104
コスト・工期	事業費の縮減(30)	31	28
	工期短縮(30)	177	150
	維持管理費抑制(10)	44	50
施設計画	ユニバーサルデザインの計画(10)	48	53
	日本らしさに配慮した計画(10)	50	52
	環境計画(10)	54	50
	構造計画(10)	52	55
	建築計画(10)	42	60
合計点		610	602

今回の見直しコンペの問題点は次の点です。

- 1、神宮外苑という神域にお寺（法隆寺）の五重の塔が本当に相応しいのか。
- 2、樹木の多い公園の中の施設に壁面緑化は必要なのか。
- 3、世界各国から集まる利用者のアプローチのためのシンボル性が欲しい。
- 4、構造体はRC造・S造なのに、フェイクとして木を見せることが木を活用し、その魅力を表現したことになるのか。
- 5、審査員の7人は適切に選ばれたのか。

建築家と言えるのは香山寿夫氏と工藤和美氏の二人で、それぞれ文化施設と学校建築が得意でスタジアムなどの大型建築は手がけていない。又、審査員長の村上周三氏は空調や設備計画が専門の人。審査講評で、「工期・コストを守ってくれるかが最大の関心事だった」と述べている。隈氏と同じ慶応大学と東京大学の建築分野の教授を務めた人である。その他の審査員は、住宅産業、構法、耐震、造園が専門の人たちであり、アドバイザー的な立場の人である。施工の専門家はどういうわけか入っていない。

- 6、A案は外見こそ異なるが、その骨格を見るとザハ・ハディド氏の計画案と酷似したスタジアム計画である。同氏から知的所有権で訴えられるリスクの高いA案をなぜ選んだのか。

1と6については伊東氏も指摘していることです。

前回の新国立競技場や五輪エンブレムの選考と同じで、今後にも禍根を残す新国立競技場の再選定であったと云えるのではないのでしょうか。

里山の家『八万町の家』竣工

設計・施工・監理
野口建築事務所



徳島市八万町に里山を家の耐震リフォーム・増築工事が完成しました。

11月の竣工見学会には、たくさんの方が見学に訪れ、大賑わいでした。今回の計画では、既存建物の魅力を最大限残しながら、必要なものを付け加えるという方法となりました。2階建てのスキップフロアの計画案から始まって、実に15案まで構想案が練られました。

最終案は結果として合理的で無駄の無い間取りで、外観も奇をてらわず素直でシンプルなものになりました。既存部分は耐震補強と一部ジャッキアップをした上で、屋根と外壁もやり替えたので、まったく新築と同様に仕上がりました。

今回の住宅は、同じ敷地内に住むご両親のライフスタイルを尊重しながら、離れを計画するということが大切なポイントでした。お母様が大切にされている庭を生かし、その庭を見ながら生活し、行き来できる位置に玄関をもっていくことで、平面計画がすっきりとまとまりました。

(野口 政司)



里山の家『八万町の家』竣工

— 私の家づくり —

N. T. さん（建主さん）

“子どもが健やかに育つ家を建てたい。”その思いから家づくりを本気で考え始め、以前見学した“里山の家”の心地良さが忘れられず、設計と増改築工事を野口先生にお願いする事にしました。

まず家を建てる環境ですが、東・南側には住宅が近接、西側には道路があります。また以前塾として利用していた建物が既にありました。更地にする事も検討したのですが、その建物は、天井に太い木の梁、内壁は漆喰に木の腰壁、床は無垢材。外壁も木でした。勿体なくて、増改築という方向に決めました。

次にどの様な家にしたいか。“安全”—地震に備えたい。“暮らしやすさ”—明るく、風通しを良くしたい、既設の建物をそのまま利用したい等々。たくさんの希望に対し、先生は次々とアイデアを出してくださいました（A案から始まりなんと0案まで！）。そして特に“耐震”と“明るさ”に拘ることにしました。

“耐震”は、既設の大部屋を二部屋に変更、壁を作り、新築の部屋の中心に柱を入れ、建物全体を支えました。屋根も瓦をやめ、鋼板で軽くしました。既設部分は、部屋を区切ると開放感が失われる気がしましたが、アクリルの入った4枚引き戸や、天井の欄間部分を透明アクリルにすることで、解放感はそのままにできました。

“明るさ”は建物北側と南側に一つずつ天窗を付けることにしました。ネットで結露等天窗のマイナスの情報を多く見かけた為、初めは設置に消極的でした。しかし現在の天窗はペアガラスになっており、結露しないこと、また北側の天窗は思いのほか、明かりを取り込むことができることを野口先生に教えていただきました。実際に、昼間は小さな日溜まりができ、温かな感じの部屋になりました。

最後に、娘はほぼ毎日、現場に通い、木槌の音や木屑の香り、体全体で家が出来のを感じていました。「私のお家、大事にしようね」と言って、走り回る姿を見て、本当に木の家にして良かったと思いました。野口先生始め、私達の家づくりに関わった多くの方御礼申し上げます。本当にありがとうございました。





改修前



以前は塾として利用されていた内部空間



増築部の棟上げ



増築部外観



増築部：内部



玄関



寝室



家族室



家族室から見る庭と母屋



物干し場

今回は、以前は塾として使われていた建物をリフォーム+増築して住宅にしています。既存部分は耐震補強を施して家族室とダイニングキッチンとして使い、増築部分は構造・断熱を重視した寝室としてシェルターの機能を持たせています。また、家族室のテレビ台や、物干し場のウッドデッキと差掛け屋根は元々あったものを加工して再利用することで、建主さんの思い出をできるだけ残せるようにしています。 (野口 路万)



中庭



竣工見学会の様子

新町川周辺のLED景観照明を眺めて 里山まちなみ探検隊レポート

季節の風物詩として、神戸ルミナリエや清水寺の紅葉のライトアップなど、各地で光にちなんだ催し物が盛んです。長く暗い冬……。漆黒の闇の中、かすかに灯る光に希望とぬくもりを見つけ出す。闇と光の織りなすハーモニーが心に響く……。はずでした。

LEDの電飾がまばゆい、新町川水際公園を歩いてみました。



『闇はいずこへ!?』

NPO 法人 里山の風景をつくる会 理事
八木 正江

皆さんは、不気味に輝く街並みを見たことがありますか？ 夜の街など歩いたことのない品行方正主婦の面々、そろって新町川LED探索に出かけました。

徳島県は特に青色LED発祥の名誉県であることから、至る所に登場してしまい、芸術はLEDにて事足れり、になっていませんか？ クリスマス近い12月には、一層エスカレートして、どこにもかしこにも銘打つ光の祭典。これでいいのかなあ。

闇があって明かりが映える、闇夜に光る蛍が恋しいよ、明かり障子をもらえる柔らかい光にうっとり……。なんて感覚のわかる人はもう珍獣なんですね。

両国橋南詰からふれあい橋、そして新町橋まで、LEDで電飾された水際公園周辺を歩きました。木という木はLED電球の着物を着せられてキラキラ、恒例の水際公園の蟬の観察会もできなくなったとか。わかります。心地良い明かり空間が欲しい、蟬ならぬ私たちの心からの願いでもあります。

『 光の調和 』

NPO 法人 里山の風景をつくる会 理事
永田 公子

東に新町川、西に眉山を望むこの場所（徳島市東船場町）に住んで8年になります。住み始めた頃は、涼やかな川風、四季折々に美しい姿を見せる眉山に街中とはいえ心地よい感がありました。

時代の流れの中、ここ数年で新町川、眉山の夜の風景が大きく変わりました。最初は水際公園の街路樹や橋の一部に施されていたLED照明のイルミネーションが、いつの間にか新町川に架かる三つの橋（新町橋・ふれあい橋・両国橋）それぞれに・・・それも橋の両側や内側まで。

ひとつひとつは有能な芸術家の作品ですばらしいものと思われます。しかしながら、統一性という観点では、必ずしも美しいとは言えません。特に街中は、看板やビルの照明もあって、毎晩目にする者にとっては、違和感を感じざるを得ません。なので、せめて季節限定にするとか、日替わりで点灯していくとか、何か工夫が必要な気がします。

眉山の頂上にも、いつの間にか煌々と光るものができていました。以前は山際に輝く三日月が風情があって美しかったのですが、今では、LEDの明るさにお月様の姿が霞むようになりました。桜の季節になると眉山の中腹にゆれていた提灯の明かりが懐かしい気がします。

青色LEDが開発された徳島でLEDを盛り上げようという運動は大切だと思います。しかし、せっかくのLEDの特性が、使い過ぎることによって逆効果を生むこともあるかもしれません。さらに、眩い光がわたしたち人間や動植物の健康にも悪影響を及ぼすのではないかという心配も出てきます。

今年12月にLEDフェスティバルが開催されます。新町川には直径約2メートルの光る球体を数百個浮かべ、人が近づくと色が変わる作品が展示されるそうです。

フェスティバルの芸術監督を徳島出身の方が務められるそうなので、調和した光の祭典を期待したいところです。



2015年度田んぼ探検隊は、5月の「田植えをしよう」から始まり、10月の「収穫祭」で6回シリーズを無事終えることができました。参加したみなさんから、毎回新しい発見や感想をいただくたびに、フィールドでの体験に勝る学びはないとしみじみ思います。農家さんが提供してくださるこの学びの場を来年も有効に利用させていただき、たくさんの子どもたちや大人の方たちに、田んぼの価値を実感してもらいたいと思います。参加した保護者の方からの感想をご紹介します。

田んぼ探検隊に参加して得たもの

Y. K.

ある夜の事であった。妻から収穫祭があるので家族で参加しようと言った。

私は、子どもにとっても貴重な経験なので参加したいと思った。

当日、田植えから収穫祭に至るまでの6回の流れや、水車を利用していたこと等、貴重な写真を見せてもらいながら、いろんな話をして頂いた。

私の家族（私、妻、息子9歳、娘3歳）は、次の3つのイベントに参加させてもらった。

第1回目の『田んぼをつくろう』に参加した時は、息子が、「しんだい」と言いながらも最後まで稲を植えた。

第3回目の『稲と一緒に育つ生きものの観察』は雨であったが、特に虫に興味津々で探していた。ザリガリやゲンゴロウ等が採れて息子、娘は喜んでいて、おにぎりやトマトを家族でおいしくいただいた。

第6回目の収穫祭では、小松島サポートセンターで、カレーをいただいた。息子には、自分で植えた稲からお米になったものだと話をしたら、うれしそうな顔と不思議そうな顔をしていた。その後、蘆淵の田んぼに行きカエルを捕まえた。

田んぼ探検隊に参加して得たものがある。それは、普段の食事での事、いつも通り息子のお茶碗には、ご飯粒が残っている。私は息子に「一粒も残さず食べような。」と言うと、「めんどくさい」という返事が返ってくる。「田植えを体験した時、しんだかったんだろ?」「お百姓さんは、そんなしんだい思いをしよんよ。みんなに美味しいお米を食べてもらって、元気でいて欲しいから頑張っつつくっとるんよ。」

「自分が稲を植えたお米を残されたらどう思う?」と息子に言うと、「それはいやじゃ」と言いながらお茶碗のご飯粒を残さず食べた。

私は、自分で体験するという事がいかに大事かと思った。

今回の田んぼ探検隊に参加して得たものは、息子が食の大切さに少しでも気がついてくれたことである。

“いただきます”

伊原 智恵美

毎年、子ども達も喜んで田んぼ探検隊に参加させていただいています。

今年は子どもの習い事と重なってしまったりで、泣く泣く欠席の回もありましたが、小学4年と2年の子ども達は習い事を休む！とまで言うほど毎回楽しませていただいています。

いつも食べている身近なお米の事ですが、なかなか体験できない田植えから稲刈りまでを実際に体験させていただく事や、農家の方がどのくらいの手間と期間をかけ大切に育てて下さっているのかなどご苦労を詳しくお話して下さる事で、よりお米を大切に食べるようになり、子どもの“いただきます”がすごく丁寧になりました！子どもにしっかり伝わっているんだな～と嬉しく思っています。

また生き物調査では、中村先生が見つけた生き物だけではなく、田んぼの生き物全体的にどんな質問にも詳しく答えて下さり、当たり前に住んでいると思ってる生き物達が、様々な事情で住みづらくなっている事やどんな環境が生き物達にとって大切なのか、農家の方が環境を守る為にどんな努力をされているかなどを子ども達にもわかりやすくいつも教えていただけるので、しっかり伝わっていると思います。

最後になりましたが、里山の皆さんをはじめ農家の方々には、いつも貴重な体験を準備していただき本当にありがとうございました。



田んぼ探検隊という響

M. O.

田んぼ探検隊という響が、気に入って参加させて頂きました。田植えを始め、かえるや、バッタ、アカハライモリ、と身近にいながらも、生態まではなかなか知らないことだらけです。カエルを触る時は一度手を水で冷やしてから触ることも教わりました。

子どもたちは、自然に触れる事で学校ではしなかった体験をさせてもらっています。

土に触れ、草の匂いをかいで、風を感じ、水の冷たさ温かさも知り、太陽の恵みを知り、目で見て、触ってしっかりと体を感じています。この体験が、子どもたちの、生きる力になっていると確信します。

スタッフのみなさん、いつもあたたかく見守り、手をさしのべて頂いてありがとうございます。来年もぜひ、参加したいです。





海野宿の町並

最近では時代劇というものがほとんど見られなくなった。どうしてだろうかと考えてみると、大がかりなセットを除いて、当時（だいたい江戸時代）の風景・美しい山河やどこまでも広がる水田・棚田の風景が撮影しにくくなったのだろうと推察する。あの一世を風靡した『木枯し紋次郎近藤 こと美』は、いつも農家の庭先、畦道、山中の道、川の畔をいつまでも歩き続けていた気がする。

ところで、NHKの大河ドラマで真田の物語が始まる。私は真田といえば幸村、そして真田十勇士が頭に浮かぶ。猿飛佐助、霧隠才蔵、三好清海入道、海野六郎、笈十蔵、望月六郎……

それは虚実ないまぜの幼いころの血沸き肉踊る時代劇だった。「うんの」という語はまさにその海野の里のことだった。



正倉院御物に「信濃国小県（ちいさがた）郡海野郷戸主（へぬし）爪工部（はたくみべ）君調」と墨書きされた麻紐が残る。中世には東信濃随一の豪族海野氏の城下町（？）的な存在であった。武将として人気の真田幸村の祖父幸隆は海野の一族を称し、武田・豊臣・徳川の時代に存続してゆくのである。

重伝建の海野宿は中山道と北陸街道を結ぶ「北国街道」の宿駅として開かれた。山中道佐久追分から分岐し、小諸を経て、田中・海野・上田を通り善光寺（長野）も過ぎ、越後直江津に至る35里約140kmの往還である。

日本海側の佐渡の金銀を江戸に運ぶため、また加賀前田家を初めとする北陸諸大名の参勤交代に重要なルートであった。（江戸からは善光寺参りへの人々も多かった。）

本来、田中宿の補助的な間（あい）の宿であった海野宿は、寛保2（1742）年の千曲川の氾濫で田中宿が壊滅状態となり本陣が移され以後大いに賑わうのだ。

そして江戸から明治へと鉄道敷設などで時代が大きく変わり、宿場としての機能を失うと、少雨・乾燥などの地の利を生かし、広い室内や天井を高くした二階建にして、養蚕を営む町として変化していった。

町並の中央を澄んだ水路が通り、出（だし）梁（はり）造り（一階より二階が張出して造られる）海野格子とよばれる格子をもった家。見あげれば卯（う）建（だつ）（脇町でも有名だが）のあがった家々。それも本うだつ・軒うだつ・袖うだつ・脇うだつ・二階うだつなど、実に多様な個性的なうだつが上っている。

宿場町としての駒つなぎや、その馬達の塩を与えた石の桶が通りに面してあり、また養蚕のための煙気ぬきの小屋根が二階屋の上ののっていたり・・・この町の過ごしてきた時間が今になつかしい。

街道の東端入口には、木曾義仲が平家追討に立ちあがったという白鳥神社がある。樹齢七、八百年の大櫓が二本、境内に聳えていたが、人間どもの変転をどう見ていたのだろう。

梢にはさわやかな風が吹きわたっていた。



みなさまお元気ですか？長らくご無沙汰している間に、愛知県半田市の住人になり一児の母になりました。

こちらに来て一年半。山がまったく見えなくて淋しいとか、水があ…、空気があ…と、徳島の恵まれた環境をいまだ恋しがってもありますが、「知多半島 花半島」と銘打って花いっぱい運動が展開されているらしく、家々の庭が花でにぎやかなのはすてきなことだなと思います。

わが家も義母が花や野菜を育てており、朝、息子が目覚めたら抱っこしてお日さまを浴びに外へ出て、ハーブの香りをかぎ比べたり、どんどん育っていく野菜を見たり、チョウや鳥にあいさつしたりしています。レイチェル・カーソンの「センスオブワンダー」みたいに、いつも自然に親しんで、小さな発見や美しさに目を輝かせられるような親子でありたいと思うのです。

去年の今ごろ彼はまだ私のおなかの中にいたのですが、「私の中にもうひとりいる！」ということが驚異的で、ずーっと一緒にいるのに顔を見たことがないというのが不思議で…。といった具合に、それはそれは神秘的で奇跡的なことに思えました。自分が結婚して子どもを産む日がくるとは思っていなかったので、経験してみても「女性ってすごいな！」と、そして外の世界に出てきた彼を見ては「赤ちゃんってすごいな！」と思うことの連続です。

専業妊婦だった私はたっぷり時間があったので、わが子のためにエイヤッと初めて絵本をつくりました。紙から選んで、原画そのものを製本した、世界に一冊の絵本です。息子が読めるようになる日はいつかなあ（その中の1ページを見てくださいね）。



徳島での里山の活動からは距離ができてしまっただけ、この地で、子どもがいるからこそ出会えた新しいご縁は自然派で活動的な人が多くて、これから息子と一緒にどんな体験ができるか楽しみ。もちろん、いつか里山の催しにも彼を連れて参加したいと思っています。徳島の濃密な自然にもどっぷり浸らせてあげたいから（ああ、山の気を浴びたいです！笑）。



お会いできる日まで、みなさまごきげんよう！

活動報告

8月10日	(月)	会報43号発行
8月17日	(月)	里山の風だより8月号
8月28日	(金)	第2回理事会
8月29日	(土)	田んぼ探検隊part5 稲刈りしよう！ 大林町
9月21日	(月)	里山の風だより9月号発行
9月29日	(火)	景観フォーラム参加
10月3日	(土)	田んぼ探検隊part6田んぼの感謝祭 田浦町
10月8日	(木)	良材ネット 会合 香美市
10月11日	(日)	第3回理事会
11月2日	(月)	里山の風だより11月号発行
11月8日	(日)	津嘉山邸見学会
11月8日	(日)	第4回理事会
		新町川LED景観照明まちなみ探検隊見学
12月4日	(金)	第5回理事会
12月14日	(月)	里山の風だより12月号発行
12月22日	(火)	田んぼ探検隊取り組みのヒアリング 農政局岡山事業所
1月1日	(金)	会報44号発行

その他、とくしま会議、吉野川ラムサールネット、
とくしま有機農業サポートセンター理事会、ミツバチぶんぶん実行委に参加

行事予定

1月20日	(水)	一日農政局in 小松島市 参加
2月14日	(日)	オーガニックフェスタ出展予定 アスティ徳島

会費納入のお願い

2015年度会費をまだ納入されていない方は、同封の振込用紙で入金していただきますよう、よろしくお願いたします。

入会のご案内

入会された方には会報をお送りします。イベントなどの情報も随時お知らせします。

- ・正会員 会の運営に参加して下さる方
- ・賛助会員 会の運営に賛同し会費により応援して下さる方
- ・年会費 (個人) 1口 3,000円 (団体・法人) 1口 10,000円
- ・振込先 郵便振替 016001-32810 口座名 里山の風景をつくる会



柿

今回は柿尽くし。

お正月に欠かせないのは、干し柿。

父は生前お鏡に串の干し柿を飾っていました。

神様や仏様にも小さなお鏡にタツクリと大根の千切りと干し柿を添えてお供えます。

11月軒端には皮を剥いた柿がつるされ、暖かい里山の風景があります。

新緑の頃、里や山はいろいろな色合いの緑や銀色・黄色み・赤みを持った若葉で彩られ目を楽しませてくれます。

中でも柔らかな黄緑色の柿の若葉が私は大好きです。

茂山やさては家ある柿若葉（蕪村）

みじか夜や浅井に柿の花を汲（蕪村）

柿若葉・柿の花は夏の季語。

俳句に親しいんだことのない私には、ちょっと意外でした。



あとがき



明けまして、おめでとうございます。

今年は、「申年」。猿という生き物は、森の奥深くを支配する神様だという考え方もあるそうです。

森を守る活動をしてきた当会にとっても、また会員のみなさまひとりひとりにとっても、お猿さんのように元気よく、ポジティブな一年になりますように！！

(ながた)

2016年1月1日発行

特定非営利活動法人 里山の風景をつくる会

〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示 28-53 TEL 088-655-1616 / FAX 088-655-1632

E-Mail : info@enjoy-satoyama.jp URL : <http://www.enjoy-satoyama.jp>